

石川

ISHIKAWA PREFECTURAL
MUSEUM OF HISTORY

れきはく

No. 139

2022.6.17

2022

7/23_土

→ 8/28_日

令和4年度 夏季特別展

工芸教育の精華

— 納富介次郎とデザインの思想 —

兼六園集合写真（納富介次郎（号：介堂）と側近教師ならびに生徒） 明治44年（1911）個人蔵

工芸教

— 納富介次郎と
デザインの思想 —

伝・川越政勝「鷲刺繍衝立」(部分)

明治33年(1900) 個人蔵

加賀刺繍中興の祖とされる川越政勝が中心となり、
パリ万博に出品したとされる明治刺繍の傑作。

日本最古の工芸・デザイン教育 工芸王国を創り上げた革新的な教育内容に迫る

納富介次郎(号：介堂)を初代校長として開校した「金沢工業学校」は、日本で最初の工芸とデザインを専門的に教育する学校でした。その開校は「東京美術学校」(東京藝術大学の前身)よりも古く、芸術としての工芸と産業技術としてのデザインを教授することを主な教育目標としました。

日本の伝統的なものづくり思想に西洋のデザイン思想を融合させた創造的なカリキュラムにより、多彩な工芸・デザイン教育が展開され、その成果として石川の工芸は今日工芸王国と称されるまでに発展を遂げ、日本の工芸文化を先導する役割を担うまでになったのです。

工芸作家の成長には、師である教育者の存在が重要な意味をもちます。教育者がもつ技術や理論のみならず、人間性や生き様までもを参考にして作家は成長するのです。

本展は、「金沢工業学校」開校以降、石川県にゆかりのある工芸教育者たちにより制作された作品や図案、図書資料等を一堂に展示することで、工芸王国石川が誇る先進的な工芸・デザイン教育の全容と、各時代の教育者たちがもつ教育理念や工芸文化に対する想いなどを理解して頂くことを目的に開催するものです。

第Ⅰ章

工芸教育の黎明

明治20年(1887)に、納富介次郎を初代校長として開校した金沢工業学校は、日本で最初の工芸とデザインを専門的に教授する学校でした。石川県勸業博物館の一部を仮校舎とし、兼六園内の成翼閣で、文部大臣森有礼列席のもと男女生徒137名、研究生男女69名をもって開校したのです。明治22年4月には金沢区立から石川県立の学校となり、校名を石川県工業学校と改称しました。開校当初は専門画学・美術工芸・普通工芸の3学部からなり、納富により招聘された優秀な教員たちにより、当時日本で最先端の工芸とデザインの実践的な教育がおこなわれたのです。

第Ⅰ章では、開校当初から明治34年(1901)に石川県立工業学校と改称されるまでの期間中に教鞭をとった教育者らにより制作された参考作品や、実習教材などを紹介します。廃校寸前にまで追い込まれた学校の危機的状況下を乗り越え、工芸王国石川の礎を築いた教育者たちによる、挑戦と苦悩の足跡をご覧ください。

第Ⅱ章

教育思想の継承と発展

東京美術学校や東京職工学校・東京高等工業学校(東京工業大学の前身)を卒業した教育者たちにより実践された教育内容は、当時全国各地で開校が予定されていた工業・工芸学校の模範となり、石川県立工業学校には、県内外から多くの教育視察団が訪れました。また、明治35年(1902)に図案絵画科内に設置された「工業図案所」は、教育と産業現場の橋渡しをする役割を担い、その活動内容は現代における産学連携のパイオニアともなったのです。

納富の教育思想を継承することで、新たな時代の教育の在り方を模索し、石川県のみならず日本の工芸とデザイン教育を牽引した教育者たちの足跡をご紹介します。

第Ⅲ章

工芸教育の現状と未来

第Ⅲ章では、戦後の復興期を経て、現代に至る工芸とデザイン教育の様相について、公募展出品作品を中心に紹介します。

金沢美術工芸専門学校(金沢美術工芸大学の前身)の開校から、石川県の3つの工芸技術研修所(輪島・九谷・山中)と石川県立工業高等学校工芸科の設置。産業としての工芸から芸術としての工芸への萌芽を経て、工芸王国石川誕生に至る確かな足取りを、作家と教育者双方の立場から読み解きます。

工芸の潮流は何処に向かい、教育現場は今後どのような対応をとる必要があるのでしょうか。工芸とデザイン教育の、未来に向けたあるべき姿について考察します。

育の精華

2022年
展示期間37日

7/23_土 - 8/28_日

会期中
無休

石川県立歴史博物館／特別展示室・企画展示室

■ 観覧料 一般／1,000(800)円 大学生・専門学校生：800(640)円 ■ 主催 石川県立歴史博物館
高校生以下：無料 ※ () 内は20名以上の団体料金 ■ 特別協力 北國新聞社
65歳以上の方は団体料金 常設展もあわせてご覧いただけます。
電子チケットは公式ホームページよりご購入いただけます。(日時指定はできません)



納富介次郎 (号: 介堂)
「関羽之図」(部分)

明治期 本館蔵

納富介次郎が、工業学校の側近教員であった友田安清(号: 九溪)に贈った掛軸。



和田重太郎 (号: 好山)
「斎藤別当実盛図」

明治36年 (1903) 個人蔵

納富の片腕として、石川県のみならず富山県や香川県、佐賀県など、全国各地の工芸・デザイン教育の発展に尽力した和田重太郎渾身の作。



村上九郎作 (号: 鉄堂)
「新田義貞稲ヶ村崎
宝剣激浪に投ず」(部分)

明治26年 (1893) 藤島神社蔵

石川県工業学校で彫刻を教えた村上九郎作が、シカゴ・コロンプス万博に出品した木彫額。

● イベント情報 会場: 当館 ワークショップルーム

石川の歴史遺産セミナー (リレー講義) ワークショップ 『近代石川の工芸教育』

要申込 (定員各40名 定員を超えた場合抽選)

日時: 7月31日(日) 13:30~15:00
演題: 「輪島における工芸指導と産地の発展」
講師: 寺尾 藍子 氏
(石川県輪島漆芸美術館主任学芸員)

日時: 8月7日(日) 13:30~15:00
演題: 「板谷波山とアール・ヌーヴォー、
実験場としての石川県立工業学校」
講師: 花井 久穂 氏
(東京国立近代美術館主任研究員)

関連ゼミナール

申込不要 (定員40名 当日先着順)

日時: 8月20日(土) 13:30~15:00
演題: 「納富介次郎とデザインの思想」
講師: 鶴野 俊哉 (当館普及課長)

事前申し込み／①と②を連続受講
(定員20名 定員をこえた場合は抽選)

① 染織講習会
日時: 7月30日(土)
13:30~15:30
演題: 「友禅藍染のハンカチを
つくってみよう」
講師: 弘田 朋実 氏
(金沢美術工芸大学
非常勤講師)

② 加賀刺繍講習会
日時: 8月6日(土)
13:30~15:30
内容: 「藍染ハンカチに
加賀刺繍をしてみよう」
講師: 横山 佐知子 氏
(石川県加賀刺繍協同組合
理事長)

資料 紹介

「水墨山水図」

— 納富介次郎・巡回教師までの足跡 —

◆ 普及課長 鶴野 俊哉

納富介次郎（号：介堂）は、天保15年（1844）小城藩士の皇学家である柴田花守の次男として生まれました。安政6年（1859）に佐賀藩士納富六郎左衛門の養子となり、画学研究と称して長崎に出て南画を学び、文久2年（1862）には長州藩の高杉晋作や薩摩藩の五代友厚らと共に上海に渡り貿易調査をおこない、見聞録を作成しています。

明治6年（1873）開催のウィーン万国博覧会には政府随員として参加。ボヘミアのエルボーゲン製陶所で伝習生として陶磁器の製造方法を学んだ後、自ら資金を得てフランスのセーブル陶磁学校を見学し、西洋陶磁の製造法と彩画法を研究しました。

大正11年（1922）に、納富の教え子である和田重太郎（号：好山）や青木外吉らが協力し、納富の長男である納富磐一と次男森山守次によりまとめられた『納富介堂翁事蹟』には、

「～前略～ 先生尚之を以て足れりとせず、自ら資を捐て単身仏京巴里に遊び、彼の有名なるセーブル陶磁学校に出入して、美術陶磁の製法並に彩画法を研究したり。先生天稟の才と熱烈の心とより、滞欧一歳に満たず、技術群を抜く。校長三歎惜かず、譽に留まりて、教師たらんを乞ひしも、先生之に応ぜずして帰朝の途に上れり、滞欧中更に石膏塑像製作法、仮漆髹法、油絵水彩画其他一々師に就て習得し、秘奥を究めずんば己まざるの精力、気力真に驚くべきものあり ～後略～」とあります。

納富はウィーン万国博覧会終了後、工人による1品制作に限界を感じ、分業制導入による生産性向上の必要性について言及しており、明治8年（1875）開催のフィラデルフィア万博では再び政府随員となり、自ら調整した工芸図案を全国各地の工人に配布し、出品作品のデザイン性向上に尽力しました。この試みが、工芸図案のアーカイブ化の端緒となったわけですが、『納富介堂翁事蹟』には次のように記されています。

「～前略～ 帰朝後事に当り物に触れ其改良の要点を指示するも、我が工業社会の旧夢容易に覚めざるべく、仮し改良の必要を認むるも、漠として其手段方法を知らず、漫然改良を叫ぶ、百年河清を俟つが如し。果たして然らば万の調査も水泡に帰するや必せり。先づ第一は貧弱なる工人を駆って、大小

工場を組織し、分業の法を採り、各種軽便なる器械を創造使用せしめざるべからず。而して之を為す第一に薰督其人を得ざるべからず。然るに我国未だ一人の之に当るべき者無きを如何せんと。～後略～」

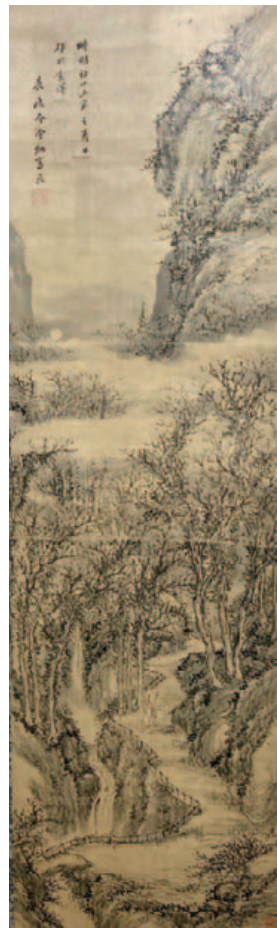
「～前略～ 米国費府に万国博覧会の開設せらるるあり。本邦工芸品の美を抜き、粋を選みて、広く之を欧米に紹介するは、商工其孰れに取るも極めて急務なりと信じ、茲に百事を捨て、再び同博覧会の事務官となり、先ず及ぶ限り図案を調整して、各出品人に下附するの議を献じ、其の容れらるるに及び、直に十数名の敏腕なる画工を選抜し、昼夜兼業立るに無数の図案を調整して、之を全国著名の各種工芸者に配布したり。～後略～」

明治10年（1877）には私設の製陶所を設立し、石鹼製造場と髹漆・鋳銅の2試験場を開くとともに、工人を雇用して自らも試験・改良にあたり、明治14年（1881）には第2回内国勲業博覧会で1等賞を獲得します。そして、明治15年（1882）、石川県から陶銅漆器改良指導を目的に巡回教師として招聘されます。

『年報石川県勲業』には、

「～前略～ 本年四月納富介次郎氏ノ来県ヲ請ヒ之レカ改良挽回ヲ企画シ内外輸出ノ販路閉塞ヲ開カン ～後略～」と記されています。

納富は県内各産地に赴き、工芸技術と図案改良指導をおこなうとともに、同業者間の組合設立法などを伝授し、図案考案会「蓮池会^{れんちかい}」でも指導にあたりました。「水墨山水図」は、ちょうどその時期に描かれた作品です。



「水墨山水図」明治15年（1882）
当館蔵

新型コロナウイルスと歴史博物館

学芸員
コラム
Column

学芸主査 大井 理恵

2020年春から感染拡大した新型コロナウイルスは私たちの生活を一変させ、ミュージアムの活動にも、展覧会やイベントの中止、長期休館など大きな影響を及ぼしました。

当館でも、令和2(2020)年度の4/11～5/17、令和3(2021)年度の5/12～6/13(特別展のみ開室)、7/31～9/30と、これまでにない長期休館を経験しました。同時に、令和2年度に準備していた特別展2本を翌年度以降に延期、令和3年度は夏季特別展「大加州刀展」を開幕9日で中止する結果になりました。また、小・中学生の利用が多かった「歴史体験ひろば」は、感染防止のため機能を縮小、現在は閉鎖しています。講演会や講座、展示解説、ワークショップなどのイベントも中止を余儀なくされ、現在徐々に再開されているものの、不特定多数の人が密集しやすい展示室内での解説は難しいのが現状です。

厳しい状況の中、各ミュージアムではそれぞれの特性を生かし、提供できるサービスを模索してきました。中でもインターネットを活用した情報発信は盛んで、講演会・展示解説動画の配信をはじめ、自宅にしながら観覧できる「オンライン展覧会」を開催する館もありました。

当館では、特別展の紹介動画を制作して公式YouTubeで配信しました。展覧会の要点を伝えるシナリオ作りと、臨場感ある映像を組み合わせる適度な長さの動画に仕上げる作業は、これまでにない経験でした。おかげ様で令和2年度秋季特別展「加賀藩江戸屋敷」の紹介動画は現時点で2万7千回再生を数えます。

SNSの活用方法も変化しました。当館の公式Twitterは2018年2月から運用しており、当初はイベント告知などが主でしたが、2020年に長期休校に合わせて北海道博物館の呼びかけで発足した「#おうちミュージアム」に参加しました。これはTwitterを主軸に「家で楽しく学べるコンテンツ」を発信するもので、当館も各分野の学芸員が知的好奇心を刺激するような館蔵資料の紹介や、家庭で

きるワークショップの提案をしました。学芸員が140字で効果的な情報提供をすることができるようになり、リテラシーの向上にもつながりました。

インターネットによるコンテンツの提供は、感染拡大防止や休館時の情報発信という当初の目的を超えて、その有用性が認識されたように思います。さまざまな事情で直接来館できない方にも、当館の活動に触れていただき、石川の歴史・文化に関心を持っていただく契機になったのではないのでしょうか。

ウィズコロナの段階に入ったと言われる今、この2年間の困難と試行錯誤をプラスに変える努力が必要になっています。一例として、有用性が認識されたウェブコンテンツの拡充のため、ホームページを刷新し、資料や展示の情報をよりきめ細かく提供できる体制を整えることが挙げられるでしょう。多くの人がスマートフォンを所持する時代に合わせた利便性の向上も大切です。昨年は接触機会低減のためにオンラインチケットを導入しましたが、各自がスマートフォンで利用できる展示解説や音声ガイドなども検討の余地があります。また、「歴史体験ひろば」も、より幅広い来館者が参加できる体験学習の場として再構築することが求められるでしょう。新型コロナを「禍」だけで終わらせず、よりよい博物館活動につなげることができるのか、今後の私たち次第ではないのでしょうか。



特別展紹介動画の撮影(2021年)



明泉寺僧・成身院宗歆の活躍を追う

学芸主任 岡崎 道子

はじめに

穴水町字明千寺にある白雉山明泉寺は真言宗の古刹で、県指定文化財の木造千手観音立像をはじめ、多くの平安仏を安置している。寺伝では白雉3年（652）に孝徳天皇の勅願で創建されたとされ、弘法大師の修行地であるとか、源頼朝が料田を寄進して主従逆修の五輪塔を建立したとも伝わる。

本寺の開創が平安時代以前に遡ることは疑いないが、はじめて明泉寺が文献に現れるのは中世も終わりに差し掛かった大永8年（1528）で、それ以前の実態は杳として知れない。この明泉寺の初出記事は『実隆公記』大永8年6月8日条であるが、成身院宗歆という明泉寺の僧が京都の公家・三条西実隆へ能登守護畠山義総の書状を届けるという内容であり、宗歆の活躍はこの前後にも複数の史料に散見する。そこで、ここでは成身院宗歆の足跡を追う事で、中世の明泉寺を探ってみたい。



明泉寺境内

一、能登の文化人として

宗歆の文献上の初出は、『為広能州下向日記』永正14年（1517）10月16日条である。これは公卿であり歌人でもあった冷泉為広が能登国に下向した際の日記で、宗歆が為広の門弟となり、銭100疋を送ったという。また、宗歆は翌年の為広帰京に際しても、同じく銭100疋を送っている。

その後の為広と宗歆の交流は明らかでないが、宗歆は大永3年（1523）に能登国滞在中の歌人・招月庵正韵主催の連歌会にも参加しており（『賦何路連歌』明治大学図書館所蔵毛利家本）、文化人としての活動が続いていたようである。この連歌会には18人が参加したが、そのうち宗歆、主催の正韵を含む4人は為広の弟子もしくは交流のあった人物で、為広を軸に結びついたものだろうか。参加者には遊佐秀倫や飯川宗春といった能登守護畠山義総の近臣もあり、宗歆が文化人として、彼らと肩を並べる地位にいたことがわかる。

二、畠山義総の使僧へ

さて成身院宗欽といえば、畠山義総の使僧として著名である。その活動は大永5年7月1日が初出で、上洛して義総の書状と源氏物語等を三条西実隆に届けている。実隆は使者の名について逐一書き記すわけではなく、同じ義総からの使いでも「能登山伏」のように人名を書かない場合も多い。義総と実隆の交流自体は義総が家督を継ぐ以前、永正11年より始まったとみられるが（『実隆公記』永正11年2月17日条）、大永5年までの11年間、宗欽が使者として活動していたかどうかは不明である。ひとまず大永5年時点で、宗欽は実隆が日記に名を書き残す価値のある人物だったといえるだろう。

大永5年7月朔日、実隆を訪れた宗欽は、その後も京にとどまり、7月10日には義総からの錢1000疋を実隆へ納め、その後も同年10月26日に実隆へ能登帰還を告げるまで、義総の使者として5回訪問しており、その任を全うしていたようである。実隆を訪う頻度からして、宗欽自身は在京し、能登との往来は別の人物に任せていたと考えられる。

ところでこの時、宗欽は義総の使者としてだけでなく、個人的にも実隆と交流をしていた。その端緒としては、8月4日の訪問が挙げられる。この日は義総がらみの要件ではなかったようで、それにもかかわらず宗欽は実隆を訪い、扇子を贈られている。使僧の領分を超えた付き合いが、この時に生まれたのではないだろうか。その後8月14日、宗欽は義総の書状を実隆へ届けた際、自身も実隆へ天野酒と肴2種を贈り、その見返りかのように実隆の持仏堂本尊を拝観している。その後少し間が開き、9月24日には潤体円（滋養薬）を持参して詩歌色紙・伊呂波等を所望し、10月22日に受け取っている。

この一連のやり取りを、宗欽がいつから企図していたのかは不明であるが、冷泉為広の門人であり、能登の文化人であった宗欽にとって、古今伝授の継承者である実隆との出会いは願ってもないことだっただろう。

三、明泉寺勸進帳の制作

宗欽は10月26日に能登へ帰還して以降、義総の使僧として実隆へ書状や贈り物を届ける一方、個人的な書状や贈答のやり取りも継続した。そして享禄元年（1528）閏9月27日、上洛していた宗欽は実隆に「明千寺勸進帳」を所望する。この時実隆は清書を承諾したと記しており、一からの作成というよりは、あらかじめ宗欽の方で作成した素案をもとに清書したと考えるべきだろうか。清書は2日後の29日に完了し、10月5日に使者を介して宗欽に送られた。数年かけて実隆との交流を重ねてきた、集大成ともいえる成果である。事実この後も両者の関係は続いているが、それは細々としたもので、この勸進帳を超えるやり取りはない。出来上がった勸進帳がどのように使用されたのかは明らかでないが、明泉寺を経営するうえで、大きく役に立ったものと思われる。

おわりに

以上、成身院宗欽の足跡を追ってきたが、注目したいのは能登で文化人として活動し、また三条西実隆と私的に交流することが叶う財力を所持していた点である。現在明泉寺に残る古絵図は室町時代末期の作とされているが、ここには現在の寺地を凌駕する大伽藍が描かれている。宗欽の活動を裏付けるかのような大寺院である。勸進帳が何のためのものだったのか、現時点では不明であるが、古絵図の制作と関係するのかもしれない。宗欽が明泉寺内でどのような立場にあったのか、成身院という院坊が存在したか等々、中世の明泉寺は依然として不明な点が多い。引き続き調査を続けていきたい。

催し物案内 Information

展示解説や各種講座などの情報をお知らせします。
※各種催し物の詳細については、当館ホームページにてお知らせします。

7月 休館日：7/21(木)～22(金)

8月 休館日：8/29(月)～30(火)

- 13日(水) **古文書講座(前期第3回)**
「江戸時代の恋路町に住んでみる?」
講師：濱岡 伸也
- 16日(土) **れきはくゼミナール**
「香林坊150年史 ―大神宮・盛り場・闇市―」
講師：大門 哲
- 30日(土) **「工芸教育の精華―納富介次郎とデザインの思想―」
ワークショップ 染色講習会**
「友禅藍染のハンカチをつくってみよう」
講師：弘田 朋実氏(金沢美術工芸大学非常勤講師)
- 31日(日) **石川の歴史遺産セミナー(リレー講義)**
「輪島における工芸指導と産地の発展」
講師：寺尾 藍子氏
(石川県輪島漆芸美術館主任学芸員)

- 6日(土) **「工芸教育の精華―納富介次郎とデザインの思想―」
ワークショップ 加賀刺繍講習会**
「藍染ハンカチに加賀刺繍をしてみよう」
講師：横山 佐知子氏(石川県加賀刺繍協同組合理事長)
- 7日(日) **石川の歴史遺産セミナー(リレー講義)**
「板谷波山とアール・ヌーヴォー、
実験場としての石川県立工業学校」
講師：花井 久穂氏(東京国立近代美術館主任研究員)
- 10日(水) **古文書講座(前期第4回)**
「江戸時代の恋路町に住んでみる?」
講師：濱岡 伸也
- 20日(土) **れきはくゼミナール**
「納富介次郎とデザインの思想」
講師：鶴野 俊哉

「工芸教育の精華 ―納富介次郎とデザインの思想―」 ワークショップ

要事前申込・全2回連続受講

石川の歴史遺産セミナー(リレー講義) 「近代石川の工芸教育」 要申込

いしかわ歴史講座

11月から1月、金曜日に実施。
当館学芸員が、常設展示の内容を中心にお話しします。

受講無料
当日先着順
全11回

れきはくゼミナール

毎月1回～2回、土曜日に実施。
当館学芸員が、独自のテーマを設定して講義します。

受講無料
当日先着順
全10回

古文書講座

当館学芸員が、古文書の読み方や内容を解説します。

受講無料
要申込
随時開催

次回 展覧会 のお知らせ

秋季特別展 アトウイー海と奏でるアイヌ文化

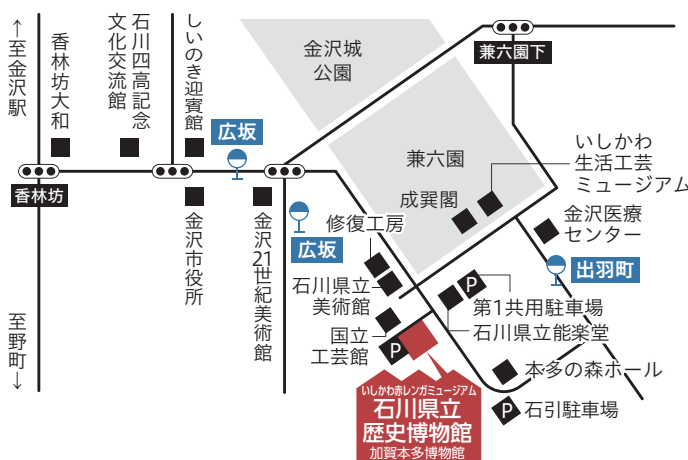
令和4年(2022) 9/23(金・祝)～11/13(日)

「アトウイ」とはアイヌ語で「海」を意味します。アイヌ民族は、その主な居住地である北海道・樺太(サハリン)・千島列島を囲む広大な海から、海獣のほか魚類・海藻類など様々な「海の幸」を受容してきました。危険を伴う海での生業にあたっては神々への祈りを欠かさず、大切に扱われた祭具や道具類が現在まで伝えられています。

一方、アイヌ民族にとって海は外の世界とつながる道でもあり、大陸と本州との交流をもとに豊かな文化を発展させてきました。「北前船交易」として知られる江戸後期から明治にかけての北海道と本州との商品流通にも、アイヌ民族は深い関わりがあります。北海道と北陸でやり取りされた海産物や工芸品の数々は、海を介した交流の存在を伝えてくれます。

本展では、公益財団法人アイヌ民族文化財団との共催により、豊富な民具資料を主軸にアイヌ民族と海の密接な関わりについて紹介します。

▲ 捧酒箸(逃げるシャチと追いかける舟) 北海道博物館所蔵



いしかわ赤レンガミュージアム

石川県立歴史博物館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL: 076-262-3236 FAX: 076-262-1836
E-mail: rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
https://ishikawa-rekihaku.jp/



Q.「こな納豆」はプロバイオティクス食品なの?
国内最古のプロバイオティクス!?
生きて腸まで届く・芽胞状の納豆菌

「納豆菌」は枯草菌の一種で、種の菌に多く生息しています。納豆菌は増殖に適さない環境になったとき、生きるための手段として耐久性の高い特殊な殻「芽胞(がほう)」をつくり出します。「芽胞状の納豆菌」は熱や乾燥に強いので、胃液にも負けることなく生きて腸まで届くことができます。
「納豆菌」は、善玉菌として働きながら、乳酸菌のエサ(オリゴ糖)をつくり、乳酸菌が住みやすい環境を整えることで、乳酸菌を元気にします。プロバイオティクスとして毎日摂りたい善玉菌なのです。
フリーズドライで粉末化した「こな納豆」は、納豆の良質なタンパク質や、食物繊維、カルシウム、ビタミンKなど、納豆の有成分を余すことなく手軽に摂取できます。さらに、生きて腸まで届く「芽胞状の納豆菌」を、生の納豆よりも数多く効率的に摂ることができるのです。

味の好みや用途で
お選びください
■内容量: 18g
■賞味期限: 未開封で1年
1,080円(税込)

・佐賀県北町有機研究会の大豆100%使用
・サラサラとした粒粒でお料理に使いやすい

◆ご注文はコチラから

受付時間: 9時～17時(休業日を除く)

050-1865-3800

そのもの株式会社
〒810-0023
福岡県中央区警固2-16-26 Ark M's-1 701

毎日の腸活に!
低脂質・高タンパク質

第21回
福岡デザインアワード
銀賞受賞
2019年11月 AWARD

カンタン!
美味しい!!

ネバネバの納豆がまるごと粉末に!
パバッとかけるだけでバランス栄養食だ!

こな納豆

ご飯にかければ、味わいは納豆そのもの。
味噌汁はたちまち納豆汁に。ほかにヨーグルトやトースト、カレー、お好み焼き、オムライス、パスタ、漬物など、いつもの料理にかけただけでおいしいも栄養もアップ。新しい調味料としてどんな料理にも手軽に使えます。

通常タイプ
おいしめタイプ

納豆風味が好きな方! お子様でも食べやすい!

《オペレータに必ず「P11」と伝えください》

●ご注文受付後、3日～7日間後でポストにお届けします。

●お支払方法は「クレジットカード」または「後払い」

(コンビニ・郵便局/手数料200円(税込))。●送料全国一律250円(税込)

●お客様事由による返品・交換は致しかねます。万が一不

良品や誤品配送の場合は、未開封の場合に限り商品到着後7日以内にご連絡の上ご返送ください(返送料弊社負担)。

※お預かりした個人情報、商品の発送や当社製品のご案内以外には使用いたしません。